



第8回 京信・地域の 起業家アワード



応募要領



募集内容

創業5年以内で起業マインド、事業の獨創性・収益性・成長性・社会性の優れた中小企業者(個人事業主含む)を対象とします。但し、過去の「京信・地域の起業家アワード」受賞者は対象外とさせていただきますのでご了承ください。

各賞の内容

- 1.「最優秀賞」**
起業マインド、事業の獨創性・収益性・成長性・社会性に優れ地域経済の活性化に貢献する中小企業者等の中から、特に優れた事業を顕彰。
〈賞金〉100万円・賞状・盾
- 2.「優秀賞」**
起業マインド、事業の獨創性・収益性・成長性・社会性に優れ地域経済の活性化に貢献する中小企業者等の中から、優れた事業を顕彰。
〈賞金〉20万円・賞状・盾(1件につき)
○各賞は、審査の結果、該当なしとさせていただきます場合もあります。

募集期間

2020年9月1日(火)～2020年10月31日(土)

選考方法

- 1.一次選考**
京都信用金庫内にてweb選考を行います。
- 2.最終選考**
有識者等による選考委員会で選考を行い、決定いたします。

注意事項
○受賞者の氏名及び事業の概要は公表させていただきます。○応募内容は他人の著作権、肖像権等を侵害しないよう十分に注意してください。○公序良俗の観点から適当でないと認められる応募については選考の対象といたしません。○選考結果についての個別のお問い合わせにはお答えできません。

(注) 京都信用金庫の営業地区とは
京都府：京都市、亀岡市、南丹市(但し、旧北桑田郡美山町を除く)、船井郡京丹波町(但し、旧和知町を除く)、福知山市三和町のみ、長岡京市、向日市、乙訓郡、宇治市、城陽市、久世郡、八幡市、京田辺市、綴喜郡、相楽郡、木津川市
滋賀県：大津市、草津市、守山市、栗東市、甲賀市、湖南市、野洲市、高島市、近江八幡市(但し、旧蒲生郡安土町を除く)
大阪府：三島郡、高槻市、枚方市、交野市、寝屋川市、茨木市、摂津市、守口市、門真市、大東市、四條畷市、吹田市、東大阪市、豊中市、箕面市


後援 近畿経済産業局、京都府、滋賀県、大阪府、京都市

応募方法

下記の京都信用金庫WEBサイトにアクセスいただき、ページ内の「エントリーはこちら」よりご応募ください。また、ページ内にて応募要領についてもご確認いただけます。

京信・地域の
起業家アワード
応募ページ

<https://www.kyoto-shinkin.co.jp/service/award010.htm>



応募資格

京都信用金庫の営業地区内(注)に主たる事業所があること。

結果発表(予定)

2021年3月上旬に表彰式を行います。

事務局

京都信用金庫企業成長推進部
「京信・地域の起業家アワード」事務局
〒600-8005
京都市下京区四條通柳馬場東入
立売東町7番地
電話 075-211-2111

『スクエア』 特別号

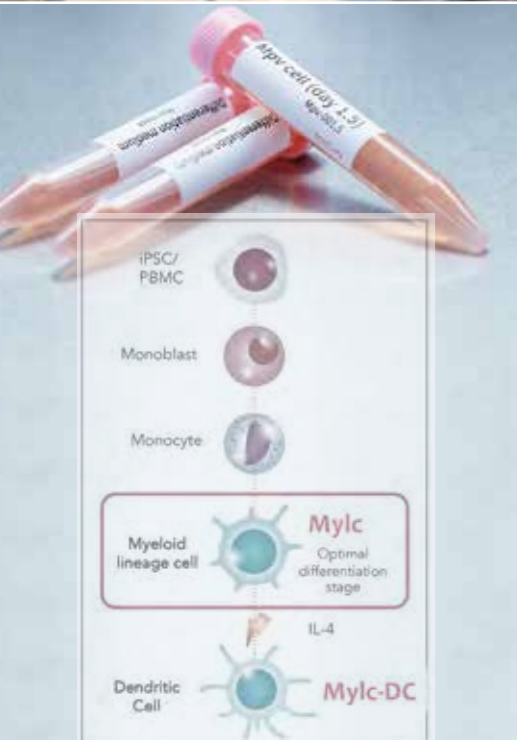
京信・地域の起業家アワード

特別編集
起業家の
「今の声」を
集めました

第7回 京信・起業家アワード優秀賞10事業の物語 THE KYOTO SHINKIN BANK Entrepreneur Award



Story



地域の起業家とともに。

当金庫は、一層の金融仲介機能の発揮により地域の発展に貢献することを目的に、「お客様本位の業務展開」を実践し、お客様と伴走して課題解決に繋がる取組を推進しています。

創業支援においては、「創業・開業のご相談は京信へ」のスローガンのもと、夢の実現へと進む起業家の皆様に寄り添い、伴走する取組を続けてまいりました。

その一環として、当金庫独自の創業支援融資「ここから、はじまる」や「インキュベーションから、はじまる」、日本政策金融公庫との連携商品である創業サポートローン「公庫から、はじまる」などの取組を通じて、資金面から起業家を支援しています。

また、起業家同士のネットワーク構築や、多様な人と人が繋がる場として「起業家成長サロン」を開催し、起業家の成長を支援することで、地域における新たな価値の創造を目指しています。

そして2013年より、地域経済の活性化に貢献した創業5年以内の優れた起業家を顕彰する「京信・地域の起業家アワード」を創設しました。このイベントは今回で7回目を迎え、これまで68名の起業家が本賞を受賞されています。受賞者の皆様は、地域に大きなインパクトを与え、多くのイノベーションを生み出してきました。

さらに起業家同士や、起業家と当金庫の関係がより一層広がることを目指し、地域の起業家が一堂に会する一大イベント「京信起業家EXPO」を2019年より開催し、起業家同士の出会いや新たな気づき、交流の場を創出しています。

コミュニティ・バンクである京都信用金庫は、「地域に様々なコミュニティを提供し、多くの起業家を輩出することで地域の発展を支える」という強い決意のもとに、これからも挑戦する起業家の皆様を応援します。



京信・地域の起業家アワードとは

京都信用金庫は、コミュニティ・バンクの使命である、人と人、企業と企業の絆を育み、ゆたかな地域社会の発展のために地域活性化支援活動として「京信・地域の起業家アワード」を創設いたしました。

p03-p04	Award Report.01 一般社団法人 アーツシード京都 芸術の創造・普及・継承・ 育成に関する活動
p05-p06	Award Report.02 株式会社 ジャパンディア インド料理店、インド市場向け コンサルティングビジネス
p07-p08	Award Report.03 株式会社 taliki 社会起業家育成事業開発・ オープンイノベーション支援
p09-p10	Award Report.04 株式会社 データグリッド クリエイティブAIの開発
p11-p12	Award Report.05 株式会社 Dodici アパレルデザイン・小売業・ クリエイティブデザイン
p13-p14	Award Report.06 ネオマテリア 株式会社 機能性材料事業・ 3Dプリンター事業
p15-p16	Award Report.07 株式会社 BugMo 食用昆虫の養殖システムの開発 昆虫由来の食品その他の 開発・製造・販売
p17-p18	Award Report.08 マイキャン・テクノロジーズ 株式会社 再生医療技術を用いて作製した 血球様細胞製品の販売
p19-p20	Award Report.09 みいちゃんのお菓子工房 12歳のパティシエがつくる 洋菓子の製造・販売
p21-p22	Award Report.10 UNIXIA ドローンを多様に活用した スマート農業サービスなどの展開
p23-p24	Topics 京都信用金庫は あなたの夢を応援します!
p25-p26	Topics 京信 起業家EXPO

一般社団法人 アーツシード京都

企業データ

芸術監督/劇作家・演出家/代表理事 あごうさとし
〒601-8013 京都市南区東九条南河原町9-1

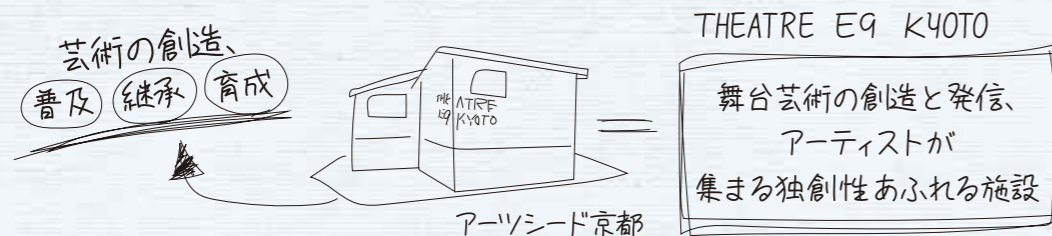


作品をつくる・ 地域をつくる劇場

芸術の創造、普及、継承及び育成に関する活動を行い、芸術の振興と発展に寄与することを目的としている。具体的には、貸館業、劇場コンサルティング業、アートスクール事業、サブスクリプション型観劇促進事業、クラウドファンディング事業を手掛けている。



取材メモ



劇場とワーキングスペースとカフェを併設した民間劇場「THEATRE E9 KYOTO」では、レジデンス機能を持たせ、アーティストがじっくりと作品をつくりこめる環境を整えたうえで、舞台芸術の創造と発信を行っている。また、2階のギャラリーでは、現代アートやメディアアート作品を創作・発表するなど、これまで京都になかった独創性あふれる施設となっている。

ワーキングスペースとカフェを運営する企業とコラボレーションしたアートスクール事業「E9カレッジ」では、参加者を募集し、ビジネスパーソンとともに演劇作品の制作・上演を行い、芸術と経済の新たな関係性を志向する実践的かつ実験的な取組を行っている。

起業マインド

これまで京都の劇場文化を牽引してきた5つの小劇場が一挙に閉館。地域の小劇場は舞台芸術の「創造環境」のかけがえのない基盤として、地域文化を生み、劇場文化における数多くのリーダー的な芸術家・舞台技術者をこれまで輩出してきた。こうした場の喪失は、若い世代の人材流出や劇場離れを加速させ、将来における地域の劇場文化の空洞化にもつながると予想される。こうした危機的状況に対処すべく、現在と未来のアーティストと市民に向けて当法人を設立。そして京都駅東南部エリアである東九条に「京都に100年続く小劇場を！」を合言葉に、新たな劇場「THEATRE E9 KYOTO」を建設した。

プロフィール



吾郷 賢

広告会社でコピーライターとして勤務。退職後、2001年 WANDERING PARTYの旗揚げに参加。第3回公演以降、全ての作品の作・演出をつとめる。2011年利賀山房で上演したイヨネスコ作「授業」を皮切りに、「複製技術の演劇」を主題にデジタルデバイスや特殊メイクを使用した演劇作品を制作する。

KYOTO EXPERIMENT 2016 SPRING ショーケース「Forecast」ではキュレーションを務める。

2014年9月～2017年8月アトリエ劇研ディレクター。

受賞の理由

地域に根差した文化・芸術を発信することで住民が気軽に触れ合える拠点を形成することには大きな意義がある。劇場という拠点を通じて創り手と観客が時間や空間を共有することは、コミュニティの基盤を形成する上で重要な意味を持ち、すなわち、それは人と人とのつながりを生み出すものとなる。人の感性を豊かにする文化・芸術に貢献することで地域の魅力向上、活性化が期待できる。

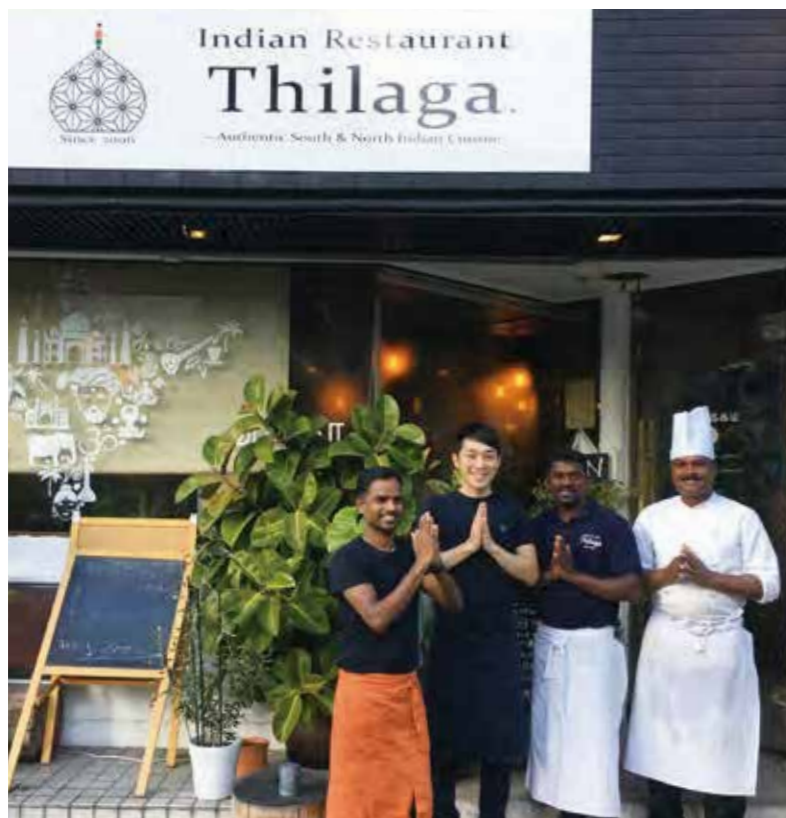


株式会社 ジャパンディア

企業データ

代表取締役 伊勢 司

〒604-8365 京都市中京区四条通り錦大宮町130-1001



日本とインド、人をつなぐ

インド人は家族の写真を常に財布に入れて見せ合う習慣があり、その習慣と日本のプリクラ機を融合させたいと構想を練り、諸々の条件が整った2018年にインドにプリクラ機本体を持ち運んだ。第二創業というかたちで、新たな文化として受け入れられるような事業を現在計画。

アウトバウンド事業

日本からインドへの企業進出のお手伝いや、現地に同行し通訳や交渉などを行っている。

インバウンド事業

主にインドや東南アジア諸国からの訪日旅行の日本現地手配を請け負っている。インバウンド専門のインド人スタッフによって、日本に訪れた旅行者のサポートをストレスなく行えることが強み。

飲食事業

京都の四条大宮にて本場インド5つ星ホテル出身のシェフが作る、本格派インド料理店を経営。健康に良い野菜や豆をふんだんに使った「南インド家庭料理」と、スパイス感たっぷりの「北インド宮廷料理」を同時に食べられる「インディアレストラン・ティラガ」。「南」と「北」の料理をお好みでチョイスできるのもティラガならではの楽しみとなっている。

起業マインド



起業の原点は10歳の時の1ヵ月間のインド旅行。その旅の中で、人や文化の多様さを肌で感じ、また日本とインドでは国や人々に様々な違いはあれど、多くの共通点もあるのだと感じる。

それから10年以上を経て、大学の卒業論文として「訪日旅行者誘致・インド人旅行者誘致における今後の展望と課題」をテーマとし、自ら1ヵ月間インドで現地調査を実施。その調査がきっかけとなりインドへ留学。卒業時に、これからの時代を生き抜いていく世代として、インドという大国、そしてそ

こに住む人々を抜きにしてこれからの世界を語ることはできないと感じ、そうであれば自分が先頭に立ち、日本のために、そしてインドのために双方の個と個を繋いでいきたいと起業に至った。

JAPANとINDIAを掛け合わせたシンプルな社名でロゴマークは日本とインドの国旗色を使い、インド建築の中に神道のシンボルである麻の葉模様を配している。



プロフィール



伊勢 司

1988年6月大阪生まれ。2011年同志社大学を卒業。

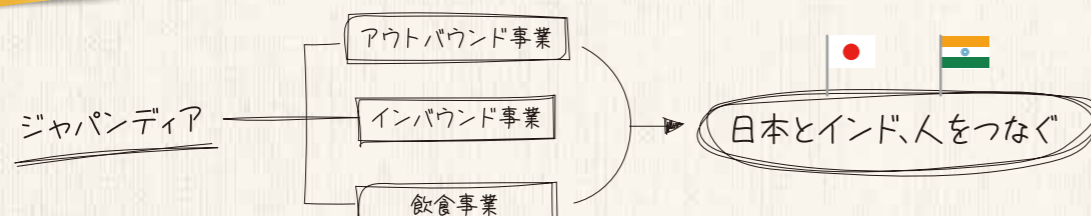
インドのパナース・ヒンドゥ大学大学院にてヒンディー語学科及び観光経営学科修士課程に在籍し、2015年に卒業。同年6月に「日本とインド、人をつなぐ」をモットーに株式会社ジャパンディア (JAPANDIA) を設立。これまで大切とされてきた「衣・食・住」に代わり、これからの考え方として「医・食・旅」が人々の生活の充実に繋がるとし、それらを軸に事業を展開している。

受賞の理由

日本とインドの架け橋になるというマインド、専門性に基づいた経営戦略と確実な事業計画。丁寧な情報収集と分析が素晴らしく、インドでプリクラを展開するなどという視点も面白い。また、外国人労働者の待遇改善及び中小企業の海外進出に向けた取組ができています。



取材メモ



株式会社 taliki

受賞企業

企業データ
代表取締役 中村 多加
〒604-8126 京都市中京区高倉通錦小路 上る 貝屋町565-1

「生まれてきてよかった」

より多くの人が「生まれてきてよかった」と思えるような世界を実現すべく、社会課題を解決する人材を輩出すると同時に、効果的な活動を行うためのサポートを行っている。

社会課題を解決する人材を応援

社会起業家育成プログラムを提供してこれまでに100名ほどの社会起業家の卵を輩出し、社会課題の解決を掲げる企業の事業創出に携わる。さらに、京都市内にて300人規模のイベント「BEYOND」を年2回開催し、日本全国の学生・経営者・非営利団体・民間企業・投資家が集まり、ソーシャルイノベーションについて考え、協業する機会を提供している。

ファンド運営

Society5.0(仮想空間と現実空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会課題の解決を両立する人間中心の社会)の実現を掲げるファンドの立ち上げに参画し、ベンチャー投資を行う。



メディア運営

これまでに支援してきた社会起業家や、社会課題を解決するプロフェッショナルを特集したメディア「taliki.org」を運営。社会起業家の認知度向上、販路拡大、協業促進のきっかけとなることを目指している。また、メディアを通じたインタビューにより蓄積された社会起業家のビジネス拡大に関する情報をもとにデータベースを構築し、支援先の企業の事業展開にも活用している。

プロフィール



中村 多加
京都大学在学中、2017年11月に会社設立。大学時代に国際協力団体を立ち上げ、途上国に2つの学校を建設。ニューヨークの報道局では大統領選や国連総会の取材も行う。

talikiの想い

持続可能性と経済合理性をもって社会課題を解決する人材を応援する

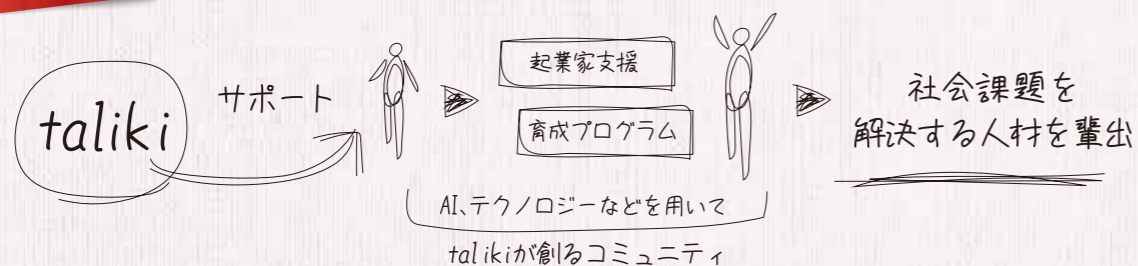
この世界には計り知れない痛みを抱えて生きている人が今日もたくさんいて、その中の多くは全体最適の中で命を落としていくということ、そしてそれらに直接手を差し伸べることができる人は、紛れもなく社会の一般人であると考えていた。

世界中で少しでも「生まれてきてよかった」と感じる人を増やすには、手を差し伸べる人の絶対数を増やし、その活動をより効果的なものにしていく必要があると感じた。

しかし、多くの非営利団体や社会課題を解決したいと感じる人は、資本主義の中で戦うすべを知らず自己犠牲になりがちである。そんな人々にテクノロジーやファイナンスなどの手段を提供し、また、仲間と切磋琢磨できるコミュニティを用意することで、彼らがより活躍し、そこから世界をどこかで泣いている誰かが明日笑顔になる。そんな社会を実現できる企業にしたいと考えている。



取材メモ

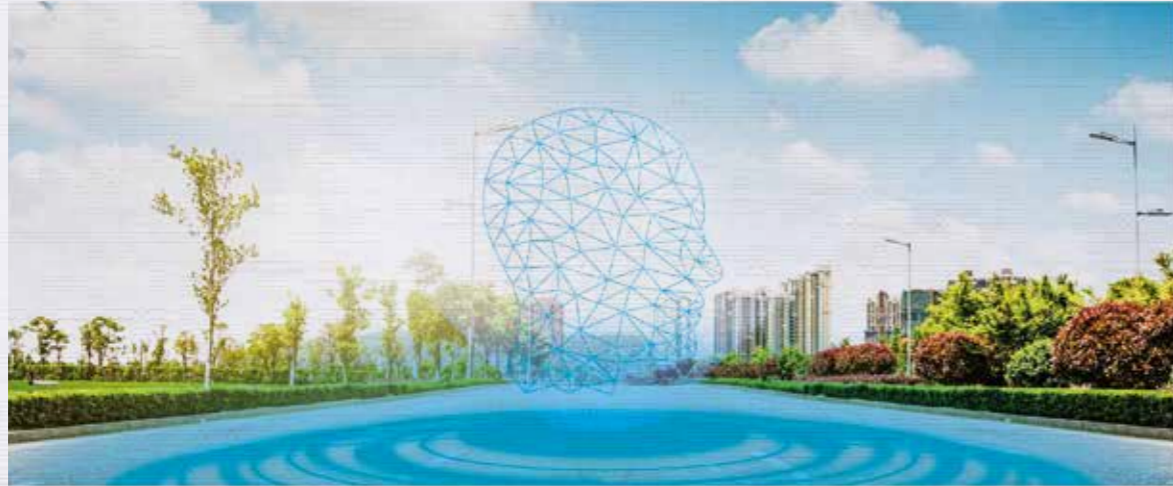


受賞の理由

地域から止むを得ず出ていく起業家や地域に埋もれている起業家の力になり、その地域の活性化につなげていこうとする高い志に共感できる。今まで分断されがちであった「社会課題の解決」と「経済合理性」をコミュニティとテクノロジーの力によって両立させる発想が面白い。

株式会社 データグリッド

企業データ
代表取締役社長 岡田 侑貴
〒606-8501 京都市左京区吉田本町36-1 京都大学国際科学イノベーション棟西館B1階



クリエイティブAIによって、複雑な問題を解決する

現代社会で起こるさまざまな問題。同社はその原因が「創造性や生産性の低下」だと考え、次世代AIであるクリエイティブAIの技術を利用することでそれらを解決し、人とAIが共創する社会を目指す。

クリエイティブAIは単純に人間のクリエイターの仕事を代替するものではない。人間にはできない発想や創作を生むことにより、人間の想像を刺激し、これまでにない創作物を生み出す。

これまでのAIでは、例えば株価の予測といった「予測タスク」や、自動運転のAIのような「認識タスク」を実行するものが中心だったが、同社が開発しているAIは「何かを創る」ことに特化している。このディープラーニングを応用したGAN (Generative Adversarial Network、敵対的生成ネットワーク) と呼ばれる技術を用いて開発したクリエイティブAIと共に、世界のフロンティア (最先端の領域) を広げていくことをミッションとしている。

取材メモ

現代社会のさまざまな問題

解決

データグリッドのAI = AI×Creative
新たな創作物を生み出す

受賞の理由

GANを使った技術は海外での優秀な事例があり、様々な業種に活用できる見込みがある。今後GANをめぐる開発競争は激化することが予想されるが、初期段階から開発に着手している点が強みである。



バーチャルモデルによるモデル産業の再定義

“実在しないモデル”を自動生成。この全身モデル生成AIにより、労働集約型のモデル産業を再定義し、アパレル、EC向けのモデルとして参入。その後広告モデルとしても展開していく。

キャラクター自動生成によるクリエイティブ効率化

1日当たり約8万人のキャラクターを自動生成可能。今後、単純なキャラクター制作は自動化され、人間のクリエイターはより創造的な業務に集中できる。



自動生成したアイドルのゲーム・VTuber展開

実在しないアイドルの「アイドル生成」プロジェクト。すでにこの技術を通じてベンチャー企業との合弁の会社を立ち上げ、このアイドル生成AIを用いたアイドルゲームをリリース済み。今後は、リアル版のVTuberも展開していく予定である。

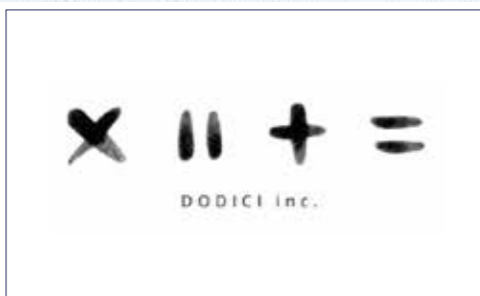
プロフィール

岡田 侑貴
1993年生まれ。京都大学にて機械学習分野を専攻し、京都のAIベンチャーにて金融分野のデータ解析業務に従事。2014年に発表されたGANの論文に感銘を受け、AIの研究領域において急速な発展を遂げていたGANに注目し、GANの技術開発及び社会実装を行うべく当社を設立。



株式会社 Dodici

企業データ
CEO 大河内愛加
〒615-8215 京都市西京区上桂大野町23-11



イタリア語で「12」を意味するDodici(ドーディチ)

1年は「12」ヵ月、時計は「12」時間で一周、星座や干支は「12」、1ダースは「12」単位、音楽は「12」平均律、仏教の「12」因縁など、「12」という数字は、古より多くの国や文明同士が交流する以前から、私たちの生活・文化・歴史の中に根付いている。

renacnatta-れなくなった-

ブランド名“renacnatta”は「文化を纏う」をコンセプトに、使わ「れなくなった」イタリアのシルクと日本の着物地を裏表に組み合わせたリバーシブル巻きスカートを展開している。着物地は日本で仕入れたヴィンテージの絹の反物を使用し、シルクはイタリア産のヨーロッパハイブランドのデッドストックを使用。2つの国の「れなくなった」が融合して新たなものへと生まれ変わる。本来なら出会うことのなかった異なる歴史や背景を持つ素材が組み合わさった日本とイタリアの文化を纏うアイテム、それが“renacnatta”である。

使わ「れなくなった」でスタートした“renacnatta”は、新たに作ら「れなくなった」をラインに加えて展開を広げている。

使わ「れなくなった」

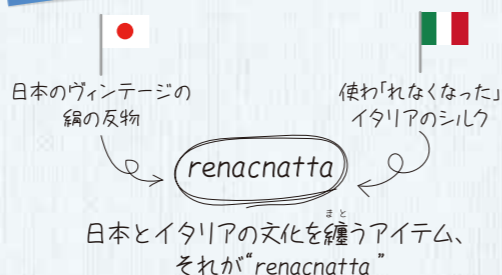
京都西陣の黒帯専門の織元「大樋の黒共」のデッドストックを活かしたり、京都の伝統工芸「金彩」をイタリアのシルクに施したイヤークセサリーを製作したり、「くくり」と呼ばれる技法で独特な縞模様の「久留米紬」を組み合わせている。

作ら「れなくなった」

作ら「れなくなった」では全盛期よりも生産数が落ちたなど、将来への課題を抱えている産業と積極的にコラボしている。西陣織や久留米紬のテキスタイルを使用したスカートなどのアイテムを展開している。



取材メモ



起業マインド

日本とイタリアでの生活を活かして

2006年、15歳の時に家族でイタリアのミラノに移住し、2016年にブランドを立ち上げる。日本で15年、イタリアで10年生活した中で、二つの国のいいところ取りをしてお互いを活かしあい、共感を生みたいと考え起業した。



コロナ禍の中、“renacnatta”の強みのテキスタイルを活かした「文化を纏う」マスクの製作にとりかかり、京都の伝統工芸西陣織を使ったマスクを展開している。着物離れから衰退の道をたどっている西陣織の魅力を、気軽に身につけられるマスクから発信している。



代表者コメント

たくさんの洋服やアイテムが溢れている現代で、私たちに様々な選択肢があります。ファストファッションの流行やトレンドの細分化により、日本では毎年「100万トン」の服(枚数に換算すると、なんと33億着)が捨てられているという事実もあります。そんな中で、文化や素材の歴史、作り手の職人さんの存在などを感じながら纏えるという選択肢があることを多くの人に知ってもらえたら嬉しいです。

プロフィール

大河内 愛加
1991年横浜市出身。
ディレクター兼デザイナー。
15歳で家族とイタリア・ミラノに移住し、Istituto Europeo di Design ミラノ校広告コミュニケーション学科を卒業。現在は京都とミラノの2拠点で生活している。



受賞の理由

日本の着物の特徴に着目してリバーシブルでサイズフリーの巻きスカートを、日本とイタリアとで使われなくなった良品を組み合わせることで新たに作りだしている。日本各地の消えゆく伝統・文化の魅力だけでなく、イタリアのシルクの魅力も伝えることで日本とイタリアの架け橋となっている。また、アパレルのコスト構造(店舗・在庫・サイズ展開・流通)を取り払ったモデルで、流行にも左右されない。

